

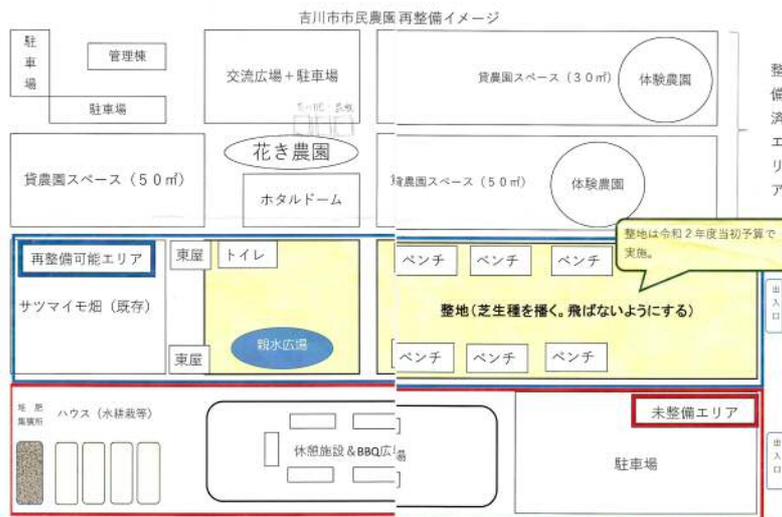
### 1. 平成30年度事業評価シート

平成30年度の「市民農園管理事業」の事業評価シートによると官民の役割分担評価では受益者負担の妥当性が極めて低評価であり改善の必要性が大と指摘されています。また、改革改善の課題と今後の改善策には「未整備地区について花回廊・果樹回廊事業の実施しているが、さらなる活用方法について具体的な検討を行う必要がある。農業振興および地域活性化に繋がる施設となるように再整備を行う。」と明記されています。

貸農園としての利用率84%とほぼ利用率は維持されていると言ってよいと思います。しかしながら単位当たりの経費の稼働率の効率性はコストが増大しており効率性の改善が指摘されています。

### 2. 事業評価を踏まえた見解

現時点で再整備の方針について様々なアイデアが出されて再整備のイメージが下記の様に描かれています。



仮にこの再整備が実施されたとしても貸農園利用者が再整備エリアを利用するとも考えられません。それ以上に貸農園利用者以外の一般市民の利用が再整備によって促進されるとも考えられません。利用者がいなければ再び再整備されたエリアは荒地化されてしまうことが容易に予測されます。再整備に際しては再整備エリアの利用目的を市民農園としての活性化方策に主眼をおいて検討することが必要と考えます。

### 3. 市民農園としての活性化方策

現時点で市民農園は効率性からは改善の余地が指摘されていますが、貸農園としてのエリアの稼働率は良好と言えます。これまでの貸農園は農地を貸し出すだけでしたが、再整備エリアを高付加価値の貸農園として拡充することを提案します。千葉県香取市の農業組合法人和郷園（平成29年11月吉川農業委員会で県外視察）では僅か数m<sup>2</sup>の農地を数万円/年で貸す極めて付加価値の高い貸農園の仕組みをビジネスモデルとしています。高付加価値の貸農園としてサポート付貸農園（シェア畑）を提案します。シェア畑とは常にプロが常駐し、お世話代行プラ

ンでは月に1~2回の来園でもOK、すなわち必要な農具は全ての農園に完備されており手ぶらで行ってもよし。サポートはプロが代行してくれる全くの素人でも好きな時の誰とでも農園に出向き手入れから収穫までどのタイミングでご自分の好きなスケジュールで楽しむことが出来る高付加価値の貸農園です。このビジネスモデルは2020年3月現在で首都圏を中心に既に99の農園が展開中です。

#### 4. 吉川ならではの差別化したシュア畑の組み立て

農地で単に路地野菜を作るのではなく素人では安易に栽培が出来ない果樹(例えばイチジクやブドウなど吉川の風土に適した果樹)に特化したシュア畑とすることで高付加価値に繋がるのではないのでしょうか。そして、家族連れで来ても子供たちが安全で安心して遊べる遊具(例えば大人も一緒に楽しめるアスレチック)が再整備メニューにあると更に付加価値が高まると考えます。既存のシュア畑にはおそらく果樹や子供が楽しめるアスレチックなどの工夫がある貸農園はまだ存在しないと思います。特にこの提案に拘るものではありませんが既にある既存のシュア畑ではなく新しい付加価値が付いたビジネスモデルを工夫すると良いでしょう。

#### 5. あとがき

本提案はあくまでも事業評価シートの評価をベースに既存の市民農園の活性化方策を大がかりな変更や投資を伴わない範囲でのものです。現状の農地を貸し出す従来の貸農園は続きます。今回の提案は再整備エリア(2ヘクタール)の利用の提案です。この提案は既存のシュア畑のビジネスモデルをベースとしていますが、さらに吉川市ならではの差別化を取り入れた仕掛けが必要です。そのためには周到なマーケティングと事業計画の作成が求められます。

#### **NPO法人シビルサポートネットワーク会員からのコメント**

※宇佐洋二(・バイオマスアドバイザー、「2011年6月 吉川市の未来を切り拓く農業への提案」筆者)

前節の和合園では、堆肥化利用も一環の中にあり、バイオガス(メタン発酵)利用や廃液の液肥化まで地域の中で取り組むことを考えているはずです。畜産の家畜排泄物が少量の場合は、食品廃棄物(例えば学校給食の食べ残し)を利用した堆肥の利用がよいと思います。この堆肥を無償で利用できるようにします。必ずやおいしい農産物が生産できます。

千葉大学の先生が水耕栽培を押してましたが部分的に取り入れて、吉川市の特産物に仕立て上げれば良いのではないのでしょうか。その際の動力源としてバイオガス利用の発電が利用できると良いですね。

実は、埼玉県和光市の市民農園のアンケート調査のデータを手にしました。利用者の年齢では、60代が一番多く次に50代、70代と続きます。若い人が意外と少ない。性別では男性が半分、女性が15%。市民農園利用のきっかけとしては、休日等の利用を有意義に過ごすため(26%)、自分や家族の健康のため(21%)安心できる農作物を栽培するため(18%)農作業を体験してみたい(18%)、市民農園15m<sup>2</sup> 6,000円/年を基準とした場合どのくらいの広さを利用したいですか?51%の人が30m<sup>2</sup> 12,000円利用をしたい(36%が無回答)市民農園を農家指導型農園の形になった場合利用しますか? 利用しない46% 無回答36% 利用する13% 未記入5% と以外と自立型の人が多いと思いました。

※横川義明氏(元三菱地所で開発案件を多数実施、一級建築士)

#### **農園計画の実施**

イギリスのガーデンはヒューマンスケールが10ha程度とされており、その中にキッチンガーデン、セラピーガーデン、芝生ひろば、低木、高木の中の遊歩道、収穫祭用のスペース、レストラン等が配置されてい

ます。区画割された単なる貸農園は魅力的でないことは誰でもわかることであるので、3haの狭いスペースであっても、市民が作り上げるイングリッシュガーデンを提案します。再度全体の計画を見直し、ガーデンの中の農園計画を作成してはどうでしょうか。お金をかけるのではなく、構想に賛同した、学生、社会人が集まって、資金計画（スポンサーの資金提供等の検討）、イベント（収穫祭）企画、農園事業サポート、交通手段の確保、その他、長期的にイングリッシュガーデンを作っていく。又、農園作りに参加した人が近隣の山間部で実施されている里山の会等への日曜参加企画農機具メーカーの教室、その他のイベントへの参加も企画してはどうでしょうか。

**計画実現のサポート**

農園計画は既設の貸農園も取り込み再スタートすることが望ましいと思います。どうせやるなら、全体のビジョンに時間をかけ、そのビジョンに従って、市民が作り上げていくことが必要です。樹があり、散策路あり、芝生があり、ソファがあり、談笑できるそんなイングリッシュガーデンは如何でしょうか。特定の人に農園を貸しても大した収入になりません。年500万円足らずの収入を期待するのではなく、農園全体の使用料金を広く一般市民に負担してもらうほうがよっぽど良いという考え。そのためにどのような企画をするか、大変楽しいプロジェクトになると思います。

